

はじめに

LCA（ライフサイクルアセスメント）という耳慣れない言葉が農業分野に導入されたのはそれほど古いことではない。もともと、LCA 手法は工業製品の評価を対象として開発されてきた経緯から、そのままでは農作物の評価に使えないことが多く、LCA 手法の農業分野への導入が進んでこなかった。しかし、諸外国では、LCA をはじめとする環境調和型の評価手法やその適用に関する研究が多く行われ、わが国でも 1994 年以来 2 年ごとに欧米、アジア各国から多数の参加の下に、エコバランス国際会議が開催され、LCA 等に関する学際的・国際的な報告、交流が行われてきた。2002 年に開催された第 5 回エコバランス国際会議では、30 件を越す LCA の農業分野への適用事例が報告された。

LCA 手法は、技術開発の視点を、単に効率やコストの面だけではなく、環境への影響を最小化するという全く新しい総合評価軸に移す試みで、農業分野でも極めて有用であると考えられる。この有用性に着目した農林水産省・農林水産技術会議事務局では、1998 年度より、農業生産に対応する LCA 手法の研究を開始した。農林水産省傘下の研究機関の独法化に伴い、2001 年度以降は農業環境技術研究所および農業技術研究機構の運営費交付金プロジェクトとして引継ぎ、進められてきた。本プロジェクトでは、当初、稲作とトマト栽培についての LCA を試行し、さらにトマト以外の野菜作と畑作へと対象を広げてきた。成果の詳細は「環境影響評価のためのライフサイクルアセスメント手法」中間とりまとめ報告書（平成 13 年）ならびに同・研究成果報告書（平成 15 年）を参照されたい。本マニュアルは、(株) エコマネジメント研究所への受託研究課題「LCA による評価手法のマニュアル化」（課題番号 1400）において、農業生産に対応する具体的な LCA 手法について「LCA 手法を用いた農作物栽培の環境影響評価実施マニュアル」として取りまとめたものであり、同社、田中浩二氏・森下研氏の多大な努力の結果である。

是非とも、この評価方法を様々な農作物の生産システムの評価に適用し、評価結果を低環境負荷の生産システム構築の際の検討材料としていただきたい。

農業環境技術研究所 化学環境部長 今井秀夫
(環境研究「環境影響評価のためのライフサイクルアセスメント手法の開発」主査)